

対新型コロナウイルスに係る 学生への取組

1 学びと交流を止めるな —「コロナ禍でのオンライン授業の試行錯誤」—

北岡 和義 (きたおかかずよし)
教養教育院 准教授

昨年末には海外の一ニュースと
思われていた新型コロナウイルス
感染症 (COVID-19) も、3月には
小中高校の臨時休校の措置が始ま
り、新年度からの大学教育につい
て早急な検討が求められる事態と
なりました。私が担当している教
養教育イノベーション教育科目に
おいてはグループワークを中心と
した対話型の授業を実施していま
すが、対面での授業ができないと
なると、最悪の場合授業実施が困
難となるほどの大きな影響を受け
ます。

オンライン授業でグループワー
クを実施するためのツールやコン
テンツの検討を始めたのは3月半
ば頃だったように記憶しています
が、実際にオンライン授業のみの
授業開始が決定されたのは4月に
入ってからでしたので、授業直前
まで授業資料を作成して何とかそ
の日の授業を実施するという日々
が8月まで続くことになりました。

メインとなるビデオ会議ツール

としては、個別のディスカッション
グループを作成できる「ブレイ
クアウトルーム機能」があること、
接続の仕方や音声の明瞭さなどか
ら、「Zoom」を用いて授業の運
用を行いました。ちょうど同時期
にセキュリティの問題がニュース
で取りざたされていました。毎
回会議室のURLを発行するこ
と、URLの共有を前日に行う
などの対策により、幸い大きな問



「Minecraft」を用いた遠隔授業の一コマ

題は起こりませんでした。また、
学生同士のディスカッションを支
援するために、電子ふせんツール、
ウェブホワイトボードなどオンラ
インで情報共有を行うためのツ
ルを多数活用しました。

さらに、「イノベーション思考
入門」という授業では、毎年レゴ
ブロックを用いたワークや「ピ
タゴラ装置」を作成するワーク
を行っています。この内容を
代替するオンラインツールとし
て、世界的にブレイクされている
「Minecraft」というあらゆるも
のをゲーム上の世界で構築できる
ゲームの教育版を活用することに
しました。こちらについては事前
の調査不足もあり学生の皆さんが
ゲーム内に入れないという問題も
発生しましたが、例年イノベー
ション思考入門の授業で伝えてい



電子ふせんツール「APISNOTE」を用いての授業内容
フィードバック

る内容をほぼすべてオンラインで
カバーすることができたと感じて
います。

前期のオンライン授業を通じて
改めて気づいたことは、普段大学
で受ける授業は新しい知識を身に
付ける場としてだけでなく、我々
教員が教室につく前に、そして授
業が終わった後には学生同士の交
流の場として機能していたのだと
いうことでした。

しかし、オンライン授業ではそ
のような機会が起こらないので、
同じ授業を受けているのにも関わ
らず、同じ学部、学科の学生同士
が知り合えないということが実際
起こっていました。それに気づい
てから、普段の授業以上に学生同
士のグループワークを長めにとり、
少しでもそのようなコミュニケーション
が取れるように配慮をしま
した。この点において、少人数で
対話することが可能なZoomのブ
レイクアウトルームはとても有効
であったと思います。

今後もしばらくオンライン授
業の取組は続くものと思われま
すが、「徳島大学に入学してよかつ
た」と感じられる学生が一人でも
多くなれるよう、今後も新しい学
びと交流のかたちを模索してい
きたいと考えています。

2

新入生歓迎 Web茶話会 実施報告

理工学部 理工学科 3年
第32代生協学生委員会
学生委員長

相江 広紀 (あいえひろき)

COVID-19の影響で対面での講
義が行われず、入学してから2ヶ
月間もキャンパスに来ることがな
く、友達や先輩を作ることができ
ずに寂しいという声が多数ありま
した。生協学生委員会は毎年「新
入生のつどい」という交流企画を
行っていますが、講義同様に実施
できず、菌瘁い思いをしていまし
た。そんな折、河村副学長や田村
副学長から「学生のメンタルな部
分を含めてとても心配。生協で何
かできないか？」というお話をい
ただき、開催に至りました。

Zoomを用いた本企画には
110名を超える参加がありま
した。大学内に配信本部を設置し
運営、新入生や上回生は各々の家
から参加しました。

内容は、新入生数名につき上回

生が入り、グループ毎に交流やお
悩み相談等を行いました。野地学
長にも新入生の質問に気軽に答
えていただいたこと、この企画を通
じて友達や先輩とつながりがで
きたことで、参加者にとっても満
足(満足度98.6%)してもらえて、
本当に嬉しかったです。

今後とも大学と生協が協力して、
皆の為になる企画をしていきたい
と思います。



運営メンバー記念写真

Zoom運営

学長開会挨拶

質問タイム①

質問タイム②

3

徳島の文化を学んで、地域の魅力に触れよう！

副学長・理事(広報・渉外担当) 田村 耕一 (たむらこういち)

コロナ禍で、対面授業はもちろ
ん、新たな友人作りやサークル活
動への参加もなかなかできない状
況ですが、学生の皆さんが地域に
ついて学ぶ機会を提供するため、
7月から「徳島の文化を学ぶ」オ
ンライン講演会を開催しています。

徳島には、いろいろな魅力があり
ますが、特に歴史や地域の特性か
ら生まれた様々な文化が根付いて
いることは、徳島の大きな財産で
あり、徳島大学の学生の皆さんに
は、是非、その魅力に触れてもら
いたいと思います。企画しました。各
分野の第一線で活躍しておられ
る素晴らしい方々の話を聴けば、
きっと皆さんも、その魅力のとり
こになり、積極的に体験、発信し
たくなることでしょう。

来年2月まで月一回開催します
ので、是非、参加して講師の方々
と意見交換してください。講演会
の内容は、ケーブルテレビ徳島の
放送網に乗せて県内に放映する
とともに、YouTubeで国内

終了	第1回「大塚国際美術館 世界の名画に出会える場所～唯一無二の体験を追求して～」 大塚国際美術館 学芸部部长 浅井 智誉子 氏
終了	第2回「阿波おどり・阿波の民謡」 娯茶平連長 岡 秀昭 氏、娯茶平三味線 安藤 正会 氏
終了	第3回「徳島の歴史と文化」 徳島市立徳島城博物館 館長 根津 寿夫 氏
10月15日	第4回「藍染」 (有)本藍染矢野工場 矢野 藍秀 氏
11月12日	第5回「阿波人形浄瑠璃」 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷館長 佐藤 憲治 氏
12月10日	第6回「四国遍路」 徳島大学教養教育院准教授 モートン 常慈 氏
1月21日	第7回「未定」 徳島県知事 飯泉 嘉門 氏
2月18日	第8回「第九アジア・日本初演」 徳島新聞社編集局編集委員 藤長 英之 氏

右の二次元コードから、それぞれの動画へ繋がる
ホームページへ移動することができます。



第2回オンライン講演会の様子



第1回オンライン講演会の様子

4

徳島大学基金事業新型コロナウイルス対策 修学支援事業基金が目標金額を達成

徳島大学では、2020年5月、新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化により困窮している学生への支援の原資とすべく、修学支援事業基金の寄附をクラウドファンディングにて行いました。

本当に多くの皆さまにご声援、



284名の方から、目標である1,000万円を大きく超えるご支援をいただきました

ご支援をいただいた結果、目標にしていた金額を超えることができました。ありがとうございます。いただいたご寄附は、学生の学びを止めないよう、必要な支援を必要となるころへ届けます。また、支援活動については、随時ご報告いたします。

5

日亜化学工業が徳島大学生の 修学を支援



感謝状を手にする、小川日亜化学工業株式会社代表取締役社長(右)と野地徳島大学長(左)

日亜化学工業株式会社(徳島県阿南市)から、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、修学が困難になっている学生に対する支援として、同社から、2,000万円、同社役員及び従業員の有志の方々から、731万円の支援をいただきました。

これに対し徳島大学は、野地学

長が8月26日に日亜化学工業株式会社本社を訪問し、同社小川代表取締役社長に感謝状を贈呈するとともに謝辞を述べました。
徳島大学は、このご支援を活用し、学生が安心して勉学を続けられる環境を整えることにしています。

対新型コロナウイルスに係る 学生への取組

6

オンラインで海外へ

毎年夏休みには短期留学プログラムを企画して学生を海外に送り出していますが、コロナ禍の影響で今年度夏期の海外留学プログラ

ムはすべて中止になりました。このような状況でも、学生が海外や異文化に目を向け、語学学習の動機付けを高める機会を提供するため、3つのオンラインでのプログラムを実施しました。①南イリノイ大学の英語・アメリカ文化研修(4週間、参加者28人)、②慶北大学の韓国語・韓国文化研修(2週間、参加者10人)、③淡江大学の中国語・台湾文化研修(2週間、参加者7人)。



南イリノイ大学研修キックオフミーティング

いずれのプログラムもネットイブから言語をオンラインで学ぶだけでなく、現地の学生や同じプログラムの参加している世界中の学生と交流し、異文化体験を行うものです。毎日3〜4時間オンラインで世界と結び、講義やディスカッションへの参加、ゲームを楽しむなど、外国語漬



南イリノイ大学研修修了式



淡江大学研修始業式

けの時間を過ごしました。本学は、海外留学をする学生には本学独自の「アスパイア奨学金」により学生の経済的負担を減らすための支援をしています。オンラインで

の留学体験プログラムに対しても参加費の半額程度を支援しました。授業や交流に対しての参加者の評価は高く、「語彙が増え、基本的な文法をおさえることができ」「ディスカッションがたっさってきた」「海外の友達ができた」等の感想がありました。また、「語学を学ぶモチベーションが上がった」「プログラムで出会った現地学生と実際に会って交流したい」「留学して現地で語学や文化を学びたい」という声も多数あり、今後の学習の動機付けやコロナ禍収束後の海外留学への意欲を高めることができました。

別の取組として、ブルガリアのヴェリコ・タルノヴォ大学とオンラインでの交流を行いました。本学の学生からは徳島と徳島大学、日本の文化を紹介し、ブルガリアの大学からは大学紹介に加えてブルガリアの料理や美しい世界遺産に関する説明がありました。プレゼンテーション後には質疑応答も行われ、遠く離れた東欧の学生と有意義な交流ができました。

徳島大学ではオンラインでの語学プログラムや海外大学との交流の実施を検討し、コロナ禍でも学生がグローバルな視点を持てるように支援し、世界に羽ばたいていけるようにサポートしていきます。



ブルガリアのヴェリコ・タルノヴォ大学との交流



オンライン研修の様子